

平成 22 年度 教育向上部会報告書

学生満足度向上委員会教育向上部会

1 はじめに

吉備国際大学では、一昨年度（平成 20 年度）より全学部の各講義を対象として、受講学生に対する「学生による授業アンケート」を年 2 回（春学期末・秋学期末）実施している。その主たる目的は、教員が授業の内容・手法等の改善を行う際に、参考となるべき情報・資料を提供することにある。実際に、アンケート結果の詳細（アンケートの原データおよび集計結果）は、各学期終了後に各授業担当教員へフィードバックされており、大学全体の教育向上において、本アンケートは一定の貢献を果たしているものと思料される。また、授業アンケート全体の集計結果は、教育向上への組織的取り組みとして各年度末に報告書として取り纏められ、本学の WEB 上においても公開されている。

一方、教育によるアンケート結果の活用には具体的な方策が欠けがちであることは認識されており、授業アンケートにおいて一定の改良の余地があったことは否めない。

以上を踏まえ、今年度（平成 22 年度）本部会では、数次にわたる部会審議を経て、授業アンケート項目の見直しを中心に変更・改良を行った。「平成 22 年度学生による授業アンケート」の主たる変更点は下記の通りである。

- ・昨年度までの授業アンケートの質問項目数が「22 項目」と多数に上ったため、学生が如何なる要素をもって授業を評価しているか見えにくい傾向にあった。このような問題点を踏まえ、今年度の授業アンケートにおいては、各項目を精査し、項目の集約・統合を図ることとした。具体的な手法としては、まず、①昨年度の授業アンケート結果において、「総合点への影響力が統計的に高い項目」を抽出し、次いで、②「教員の努力により改善が可能な項目」に限定することにより、質問項目の集約・統合を行った。
- ・アンケートの対象科目および実施時期の見直しを行い、前年度と同様に、非常勤教員による授業も対象に含めることとした。また、対象科目は学外実習やゼミ活動を除いた全ての科目とした。
- ・学生が授業を評価する際に基準とする要素を特定するため、授業アンケートに自由記載欄を設けた。この自由記載欄の集計内容は、学生の授業ニーズの把握に用いる他、次年度以降の授業アンケート質問項目の設定を行う際に、参考として用いられる。

2 「学生による授業アンケート」の調査結果

(1) 質問項目の構成

授業アンケートの質問項目は、「教員の熱意・意欲」への評価（2 項目）、「説明の分かり易さ」への評価（3 項目）、「授業内容の選択・進度の適切さ」への評価（4 項目）、「授業環境への配慮」への評価（3 項目）の合計 12 項目に加えて、「授業の良かった点と改善して欲しい点」についての自由記載欄から構成されている。各項目は「1：そう思わない」～「5：そう思う」の 5 段階評定で回答を求めるようになっている（資料 1）。

(2) 調査時期と対象

今年度の授業アンケートは、春学期開講科目を対象に平成 22 年 7 月 9 日から 30 日までの期間に実施した。また、春学期に開講科目のない教員および春学期に実施できなかった教員については、秋学期開講科目を対象に平成 22 年 12 月 16 日から平成 23 年 2 月 1 日の期間に実施した。

調査を実施した教員は、常勤 125 名（132 名中）、非常勤 78 名（79 名中）の計 203 名、科目数は計 552 であった。前年度は、常勤教員の全てが授業アンケートを実施したが、今年度は 94.7%に留まった。

授業アンケートへの述べ回答数は、18,395（男性 10,296、女性 7,833、未記入 266；日本人 13,315、留学生 2,988、未記入 2,092）であった。平成 22 年 5 月 1 日現在の本学の在籍者が 2,233 名であることから、1 人の学生につき、約 8.2 科目回答したことになる。

(3) 平成 22 年度の授業アンケート結果

今年度は、授業アンケートの回答の傾向および受講者数（回答数）と評価点との関連を把握するための分析を行った。

図 1 は、全ての科目について評価合計点の度数分布を示したものである。ここでは、分析対象を全ての質問項目に回答したデータのみとし（述べ回答数は 18,169）、また、階級区分を 1 とした（最小値は、12 項目の全てに「1：そう思わない」を付けた場合の 12 点、最大値は、12 項目の全てに「5：そう思う」を付した場合の 60 点）。

分布は緩尖的で、40 点位から度数が横ばいになっている。しかし、合計点が 12、24、36、48、60 の各点において、度数が極めて高い。合計点の平均値は、48.0（標準偏差：10.0）と高いものの、学生が全ての質問項目に同じ点数を（機械的に）記入する傾向にあると推測できる。

図 2 は、回答数を 5 つのグループ（19 名以下、20-39 名、40-59 名、60-79 名、80 名以上）に分けた場合の科目ごとの合計点平均の散布、および最大値、中間値、最小値を示したものである。最大値と中間値は、回答数が多くなる程わずかに低下する一方、最小値は回答数が多くなる程上昇している。このことは、受講者数が少ない／多い程、授業アンケートの評価は高く／低くなる傾向を示しており、アンケートの評価点のみで安易に授業を評価することには注意を要することが示唆される。

大学全体および教員が所属する学科ごとの「授業アンケートの集計結果」は資料 2 に示した。

3 授業アンケートの自由記載による「学生の授業ニーズ」の把握

本年度の授業アンケートにおいては、学生が授業を評価する際に基準とする要素を特定するために、授業において良かった点および改善して欲しい点を問う自由記載欄を設けた。

本年度実施したアンケートにおいて、良かった点および改善して欲しい点を記載した学生の延べ人数は、それぞれ 3,677、1,285 であった。これらの記載内容から、まず、各記載を授業アンケートの 12 の質問項目へあてはめ／分類を行ない、次いで、項目の度数分布、および良かった点および改善して欲しい点の回答数と科目数との関係から「学生の授業ニーズ」の把握を試みた。

図 3 は、授業アンケートの 12 項目の度数分布を良かった項目および改善して欲しい項目に分けて示したものである。良かった項目については、「授業の内容は興味や関心もてるものだった」(2,164) が最も多く、次いで、「授業を分かり易く説明していた」(683)、「学生の積極性を引き出す努力をしていた」(210)、「授業方法を工夫していた」(204)、「学生の理解に合わせた授業をしていた」(136) の順であった。一方、改善して欲しい項目については、「授業内容を分かり易く説明していた」(363) が最も多く、「授業方法を工夫していた」(154)、「学生が聞き取り易いように話していた」(148)、「授業の進度や時間配分は適切であった」(140) の順であった。

表 1 は、図 3 において度数の高かった 6 項目について、良かった点および改善して欲しい点の具体的な記載を整理したものである。「授業の内容は興味や関心もてるものだった」の項目については、良かった点が、「楽しかった／面白かった」、「知識や興味が深まった」等であり、一方、改善して欲しい点は、「授業の内容を濃くして欲しい」、「もう少し楽しい授業が良い」等の記載であった。以上の結果から、学生が興味や関心が持てるような内容を分かり易く説明すること等、一般的に授業の改善に必要とされる項目の改善が重要と考えられる。

図 4 は、良かった点および改善して欲しい点の回答数と科目数との関係（散布図）を示したものである。良かった点および改善して欲しい点の記載があった科目数は、それぞれ 426、325 であった。良かった点および改善して欲しい点ともに回答数が多い程科目数は少なく（回答数が少ない程科目数は多く）なっている。大学全体の教育向上を図るためには、科目数は少ないものの改善して欲しい点の回答数が多い科目を対象とした改善が必要となる。

資料 1 学生による授業アンケート

このアンケートは、みなさんがこの授業をどのように感じているかを知り、今後の授業を改善するための参考資料として活用することを目的としています。

I この授業について

以下の質問に対して、5. そう思う 4. どちらかといえばそう思う 3. どちらでもない 2. どちらかといえばそう思わない 1. そう思わない の中から適当と思う番号を選んでください。

	そう思う	——	どちらでもない	——	そう思わない
1 授業に対する熱意や意欲が感じられた ^a	5	4	3	2	1
2 学生の積極性を引き出す努力をしていた ^a	5	4	3	2	1
3 授業の内容は興味や関心がもてるものだった ^c	5	4	3	2	1
4 学習の方法についてわかりやすくアドバイスしていた ^b	5	4	3	2	1
5 授業内容をわかりやすく説明していた ^b	5	4	3	2	1
6 学生が聞き取りやすいように話していた ^b	5	4	3	2	1
7 学生の理解に合わせた授業をしていた ^c	5	4	3	2	1
8 授業の進度や時間配分は適切であった ^c	5	4	3	2	1
9 授業方法を工夫していた ^c	5	4	3	2	1
10 学生の授業への出席や欠席、遅刻について指導していた ^d	5	4	3	2	1
11 居眠りや騒がしさなど、学生の授業態度を指導していた ^d	5	4	3	2	1
12 学生が授業をまじめに受けられるよう配慮していた ^d	5	4	3	2	1

a「教員の熱意・意欲」 b「説明の分かり易さ」 c「授業内容の選択・進度の適切さ」 d「授業環境への配慮」を示す。

II この授業を受講して良かったと思った点を書いてください。

III この授業に対して改善して欲しい点を書いてください。

資料 2 大学全体および学科ごとの授業アンケート集計結果

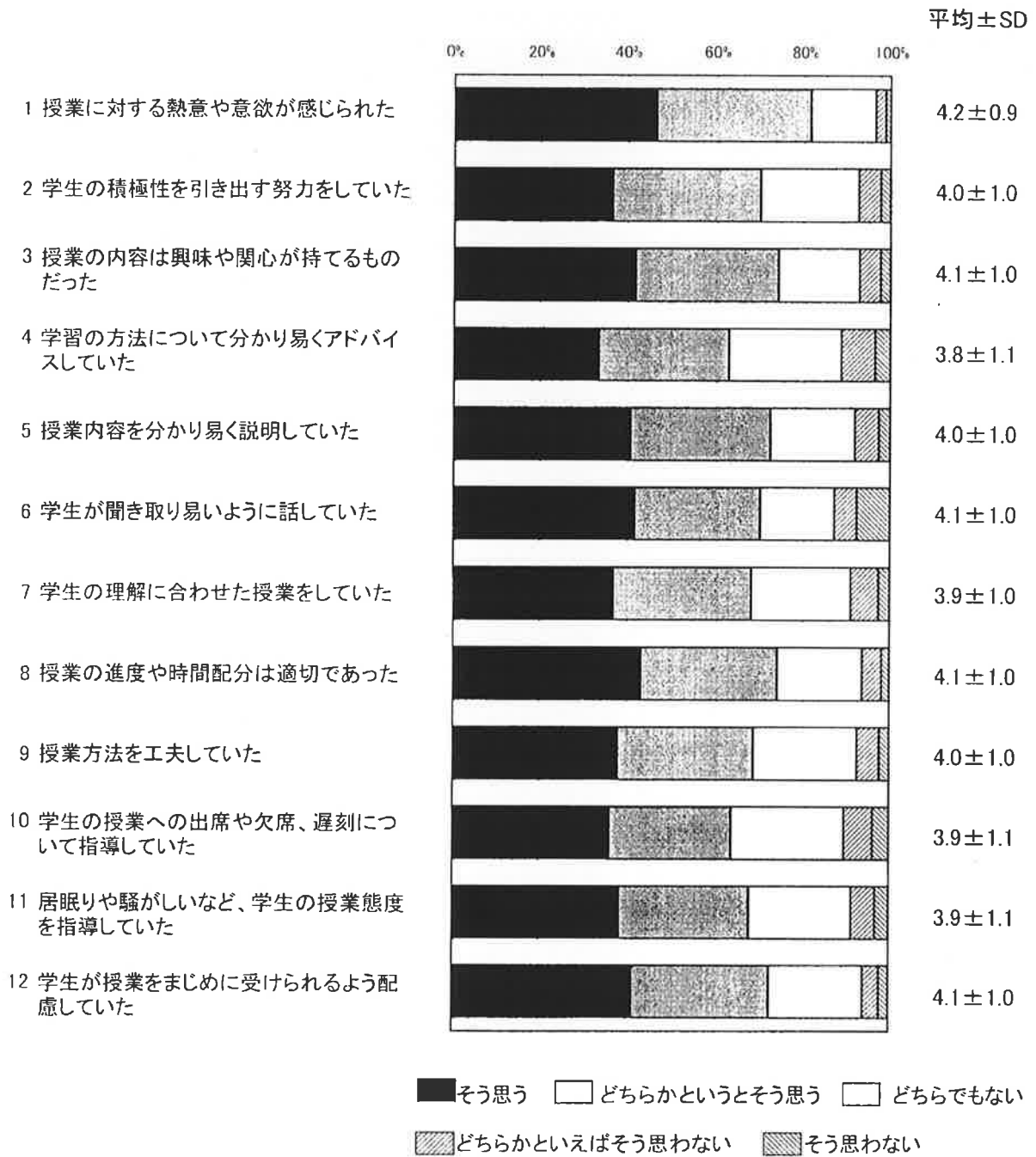
学 部	学 科
社会	国際社会 ビジネス・コミュニケーション スポーツ社会
保健科学	看護 理学療法 作業療法
社会福祉	社会福祉 子ども福祉
国際環境	環境経営
心理	臨床心理
文化財	文化財修復国際協力 アニメーション文化
その他	非常勤

平成22年度授業アンケート集計結果(大学全体)

対象教員数: 203

対象科目数: 552

対象学生数(述べ人数): 18397

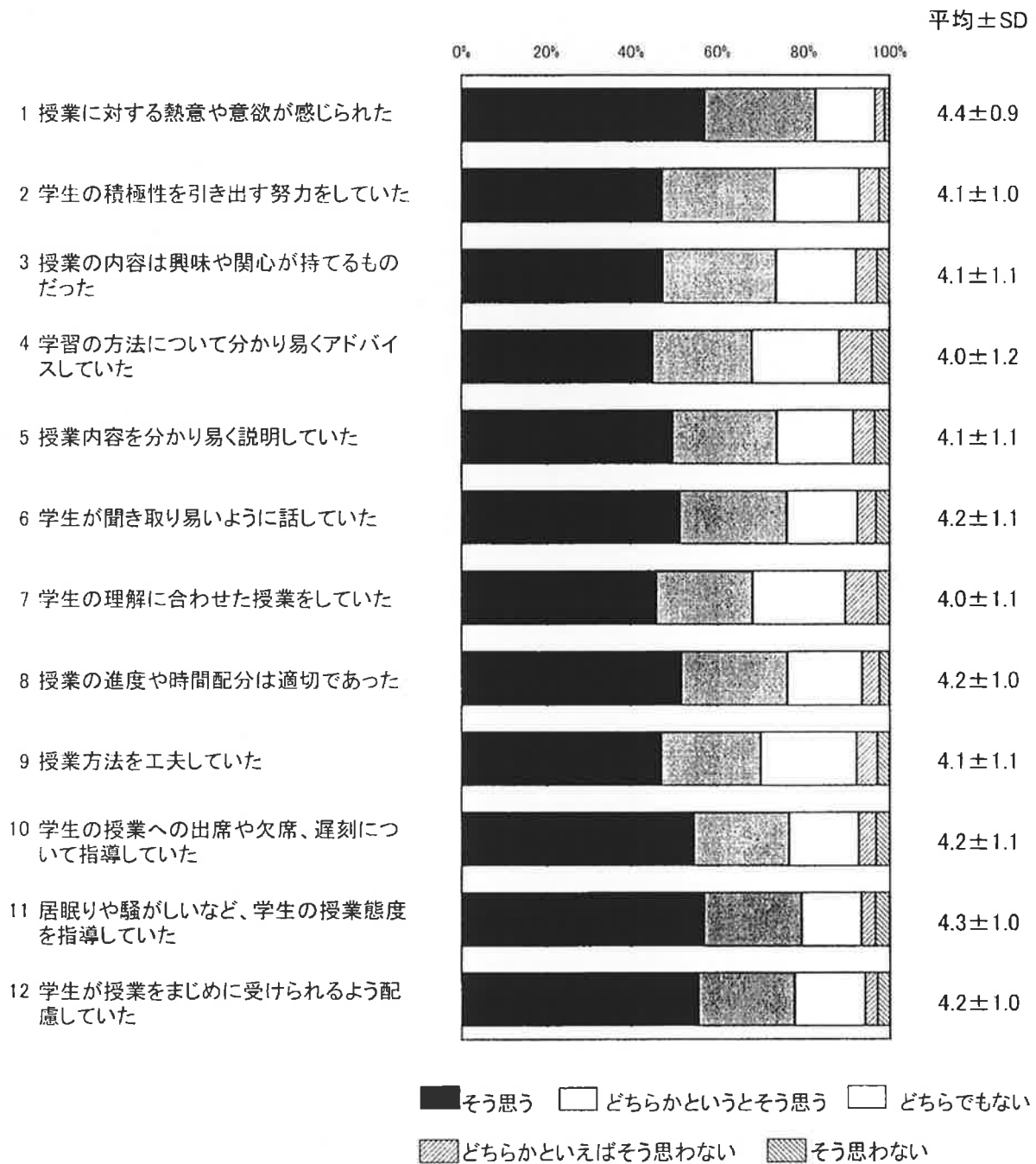


学科名： 国際社会

対象教員数： 8

対象科目数： 29

対象学生数(述べ人数)： 1329

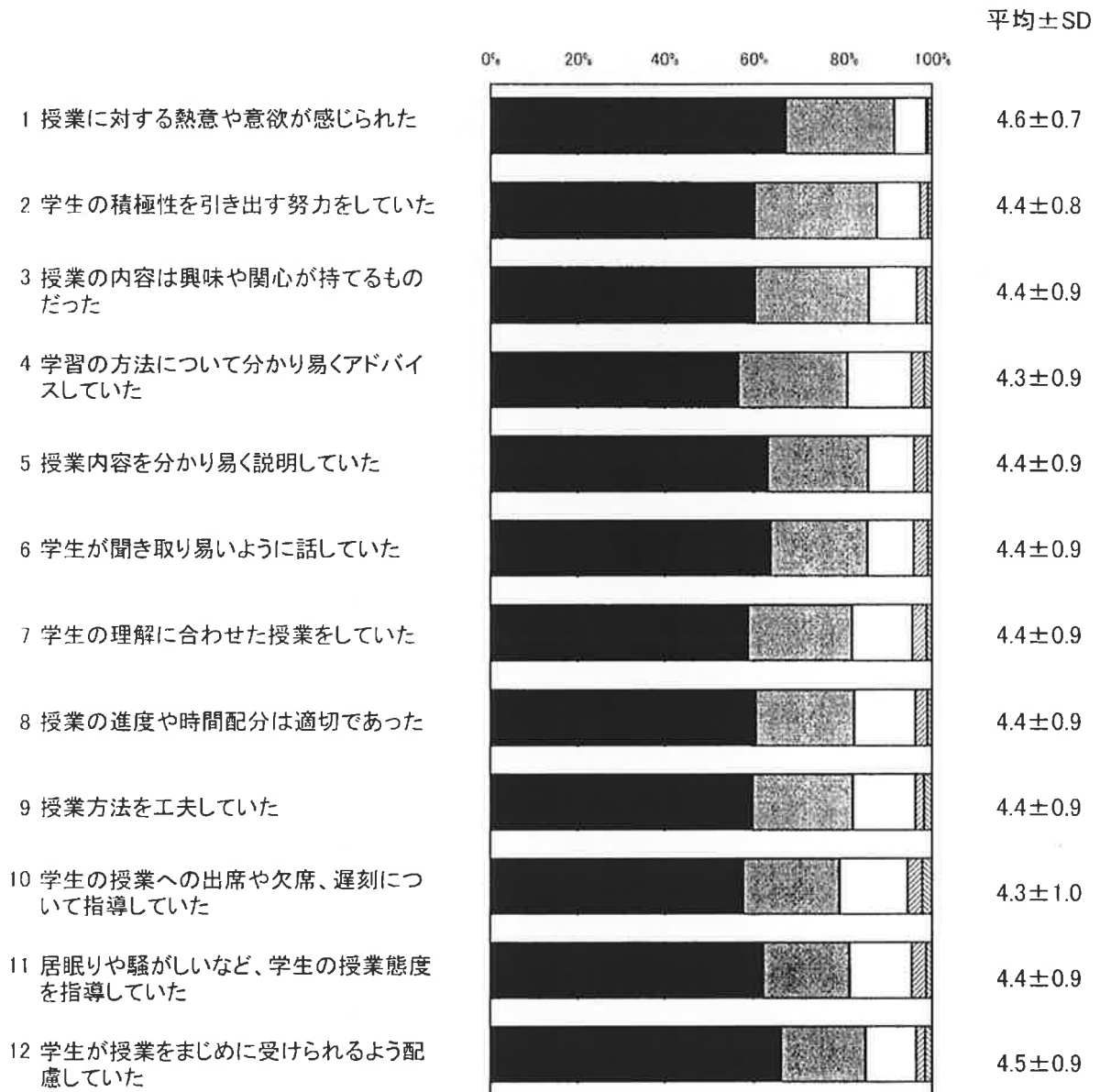


学科名： ビジネスコミュニケーション

対象教員数： 8

対象科目数： 27

対象学生数(述べ人数)： 821



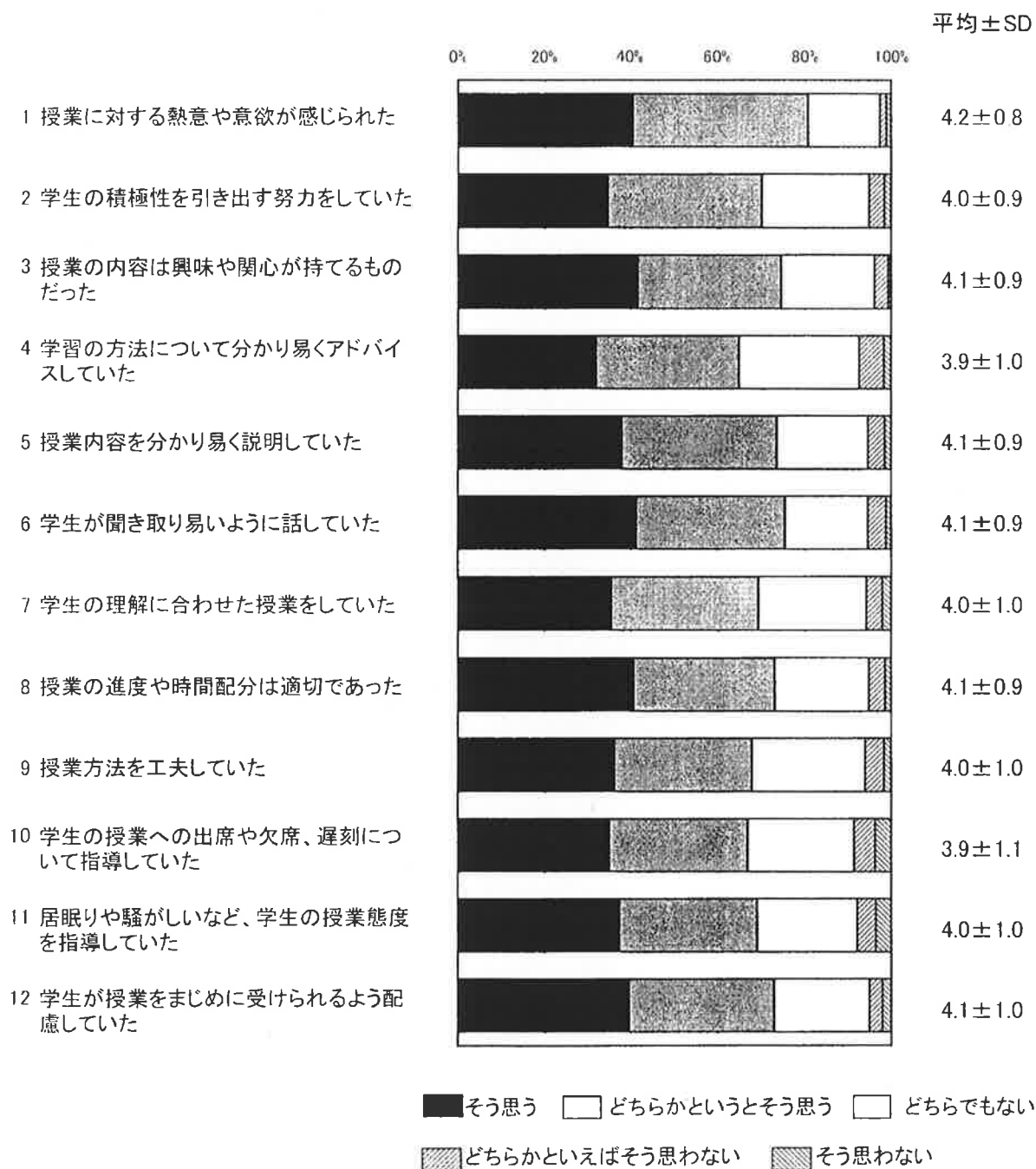
■ そう思う □ どちらかというと思う □ どちらでもない
▨ どちらかといえばそう思わない ▩ そう思わない

学科名： スポーツ社会

対象教員数： 13

対象科目数： 42

対象学生数(述べ人数)： 1752

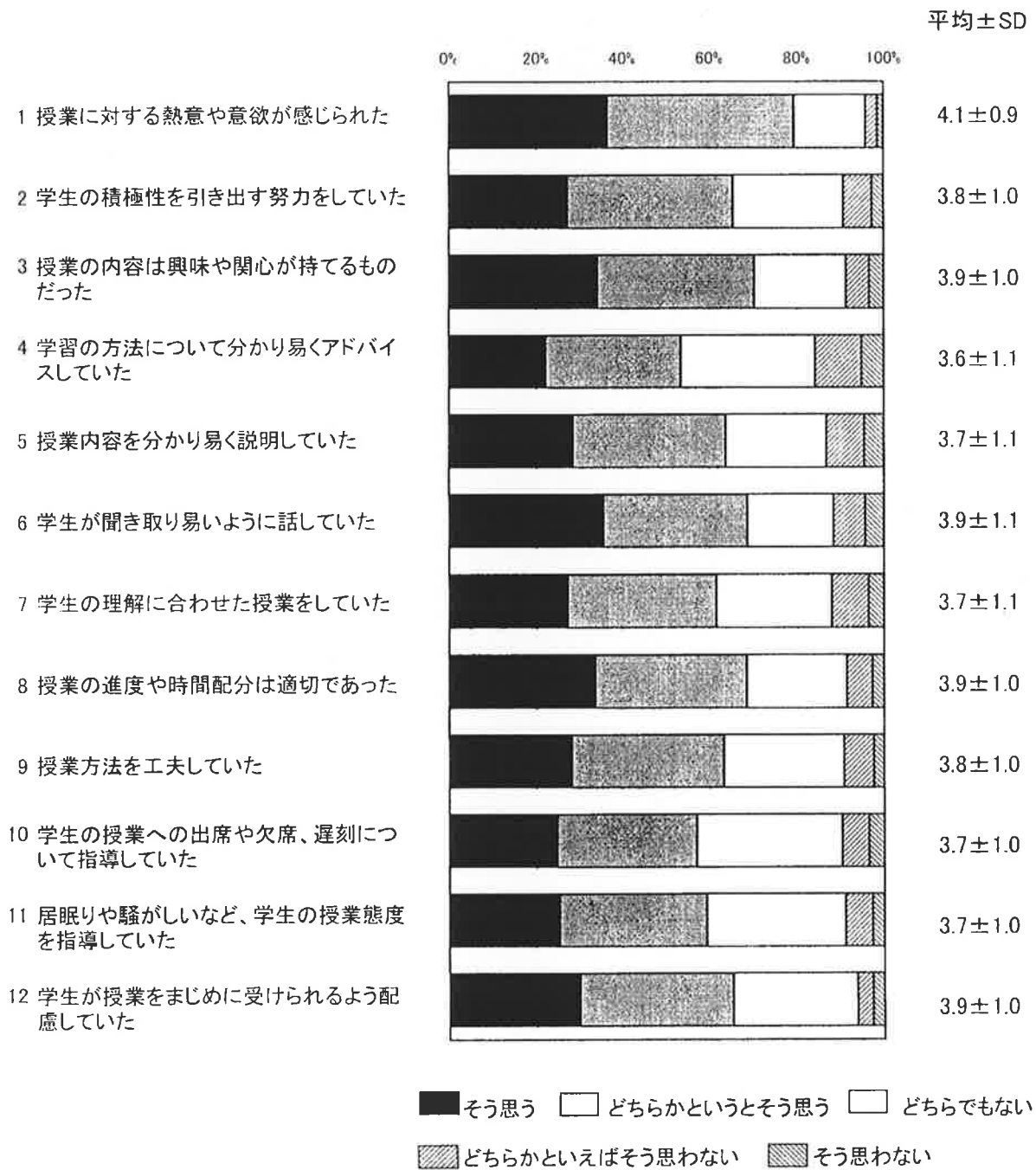


学科名： 看護

対象教員数： 14

対象科目数： 48

対象学生数(述べ人数)： 1948

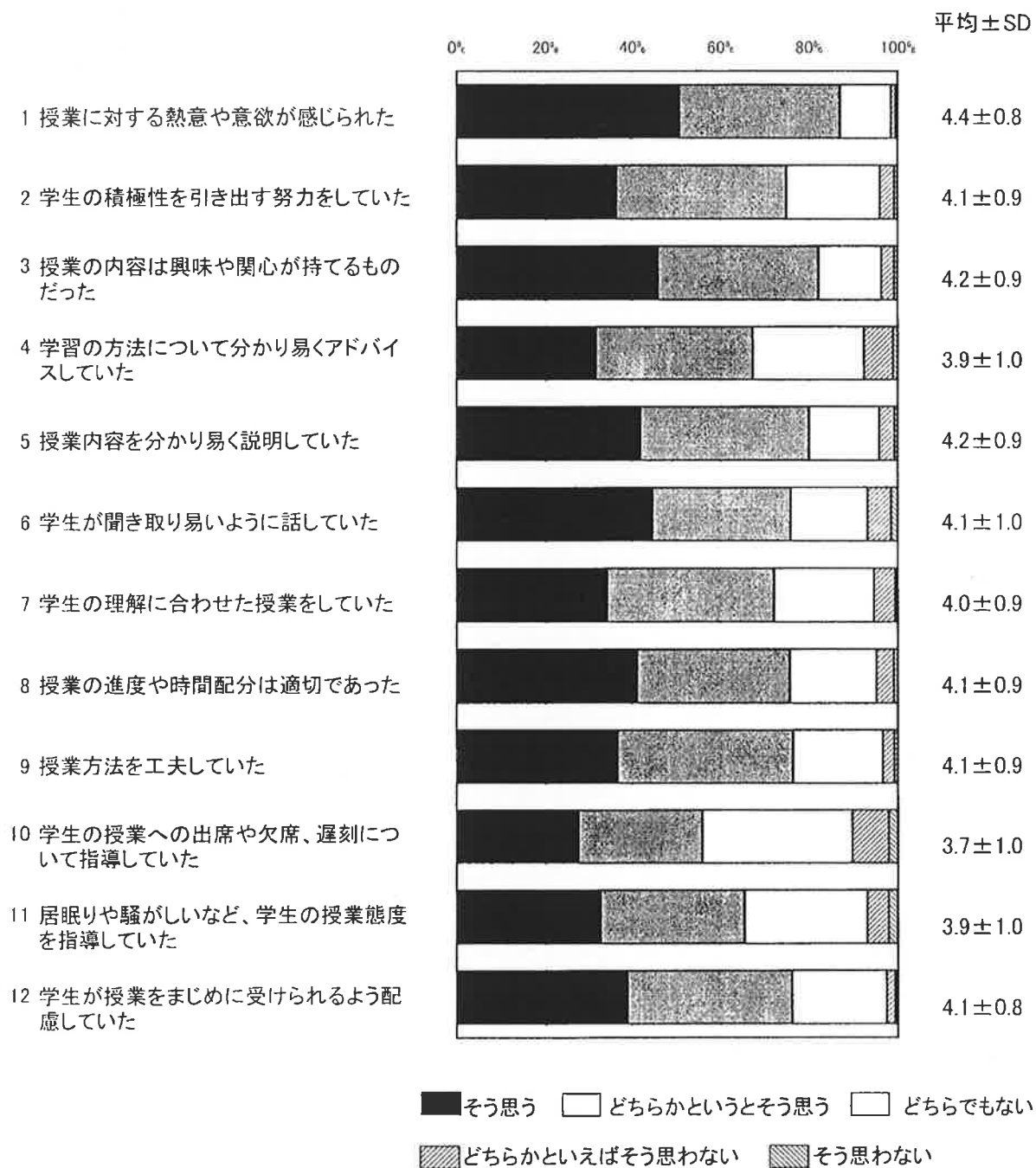


学科名：理学療法

対象教員数：10

対象科目数：35

対象学生数(述べ人数)：1779

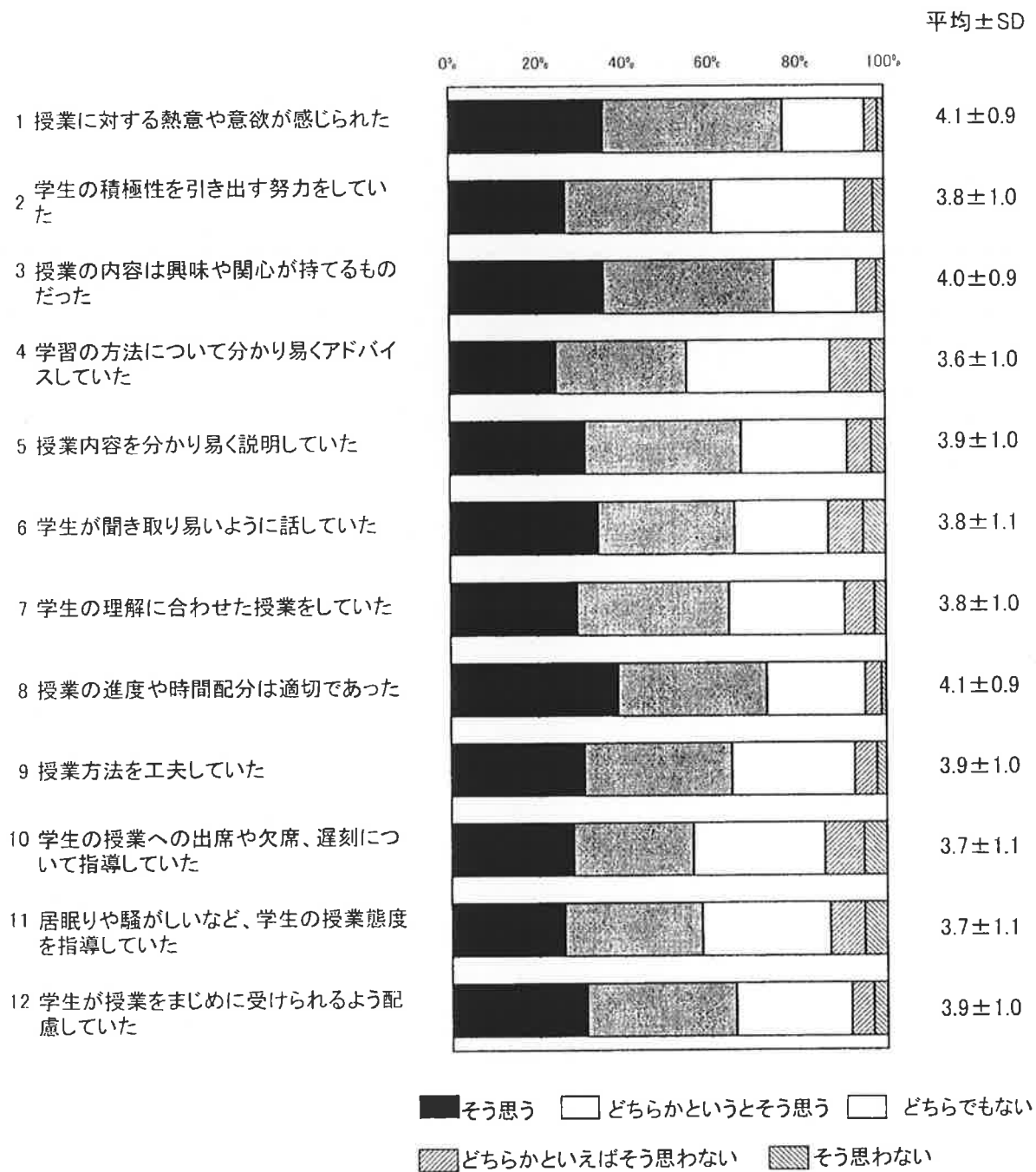


学科名： 作業療法

対象教員数： 11

対象科目数： 29

対象学生数(述べ人数)： 1365

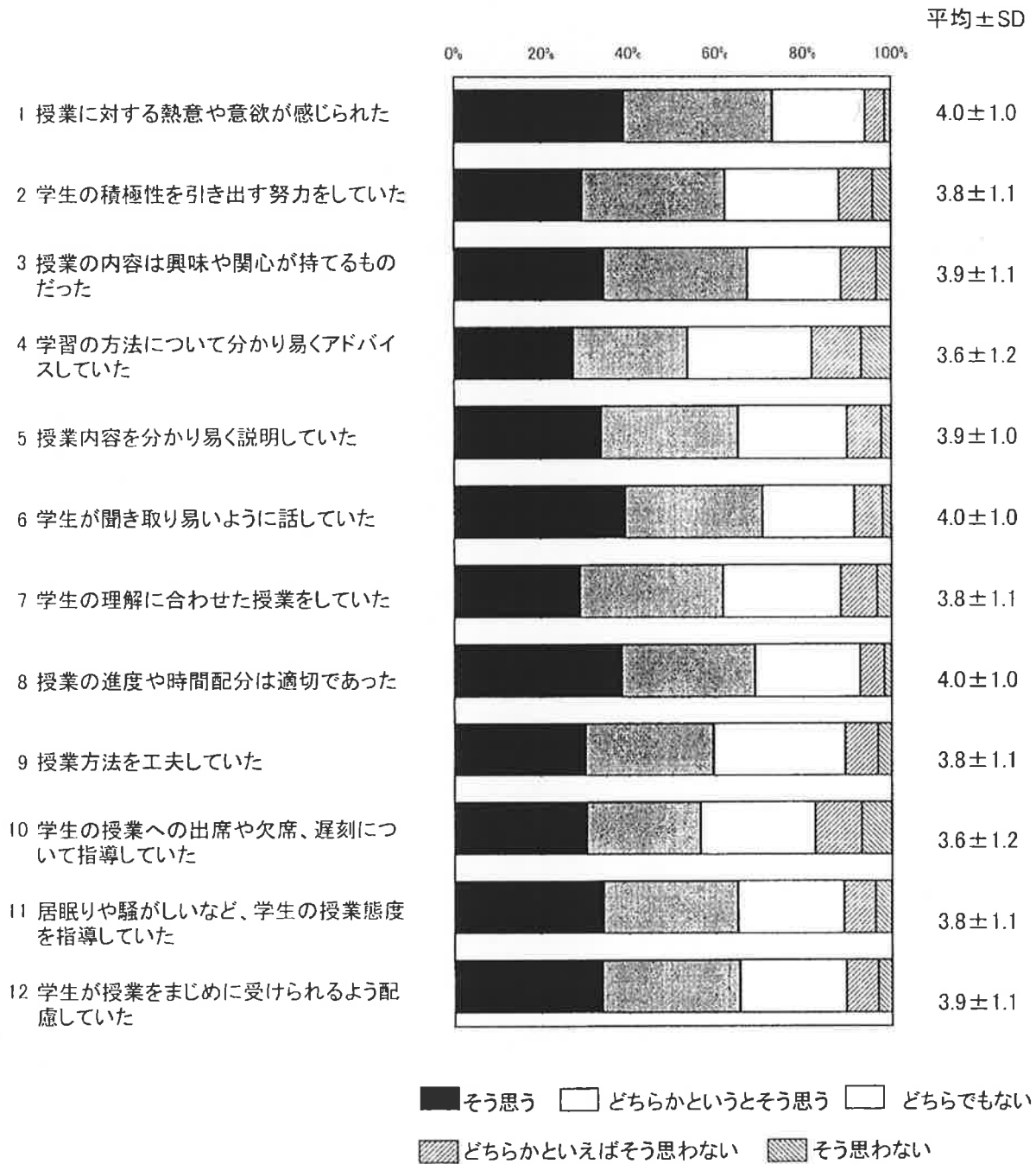


学科名： 社会福祉

対象教員数： 15

対象科目数： 41

対象学生数(述べ人数)： 1328

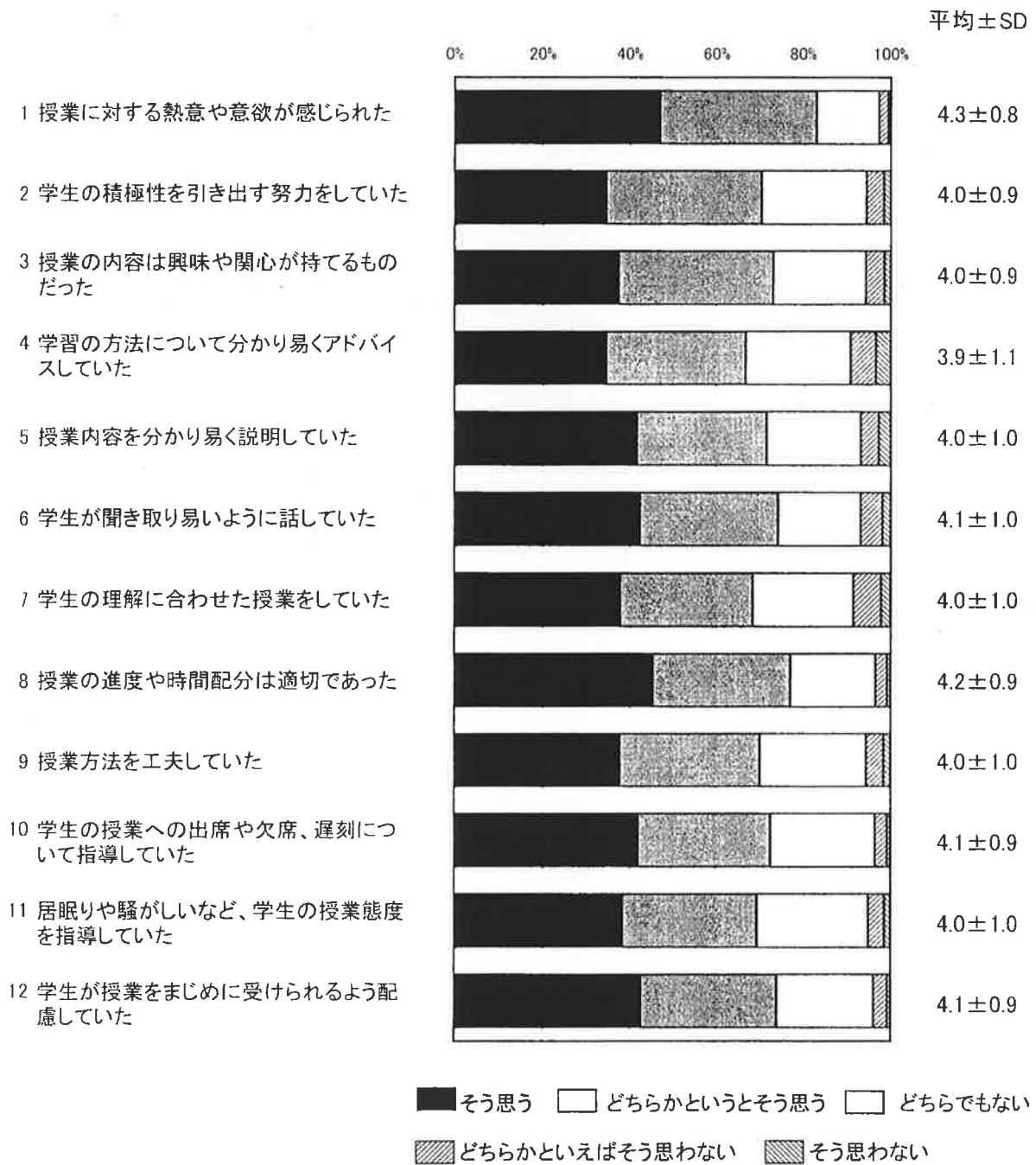


学科名： 子ども福祉

対象教員数： 11

対象科目数 45

対象学生数(述べ人数)： 1274

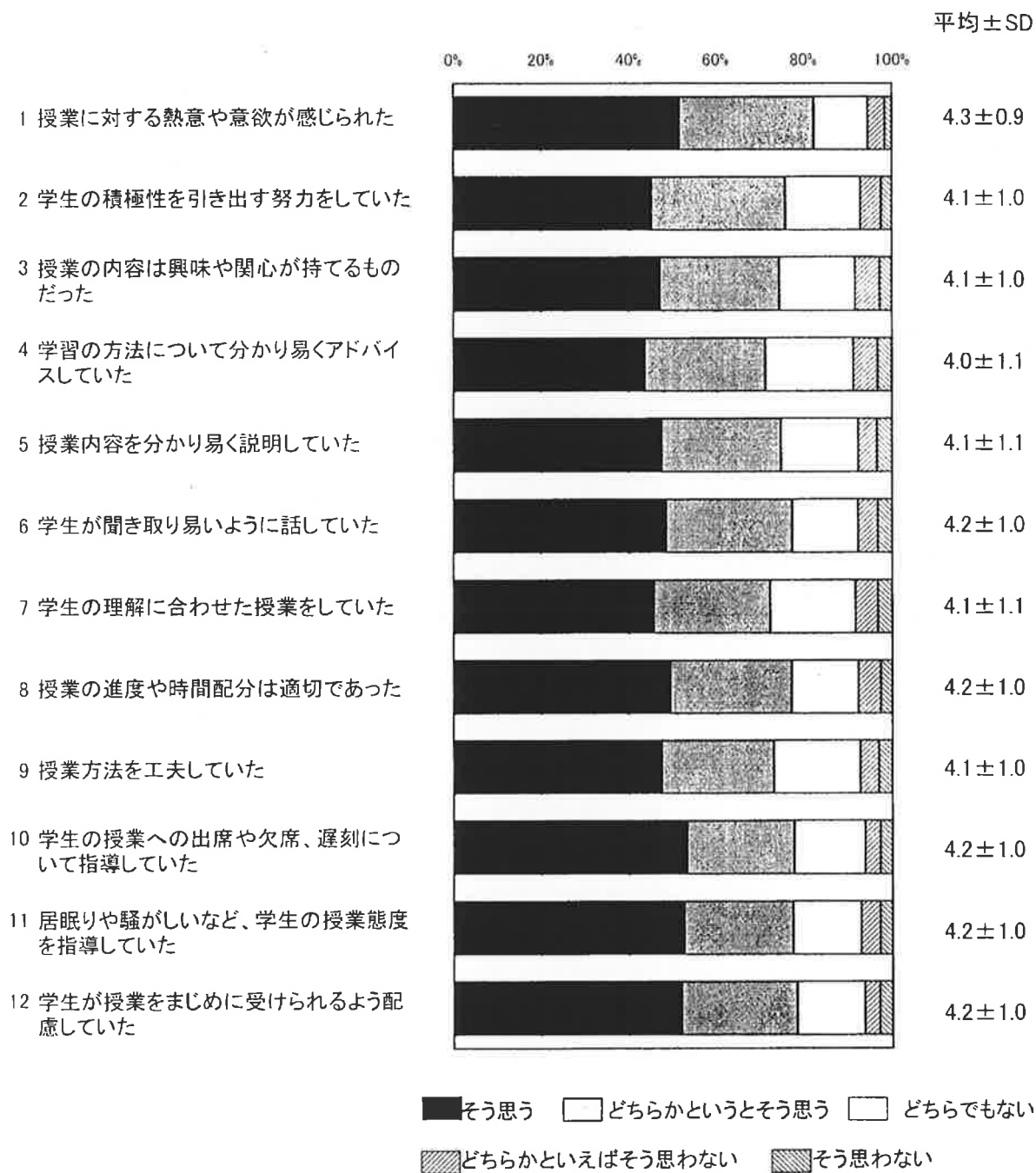


学科名：環境経営

対象教員数：10

対象科目数：38

対象学生数(述べ人数)：960

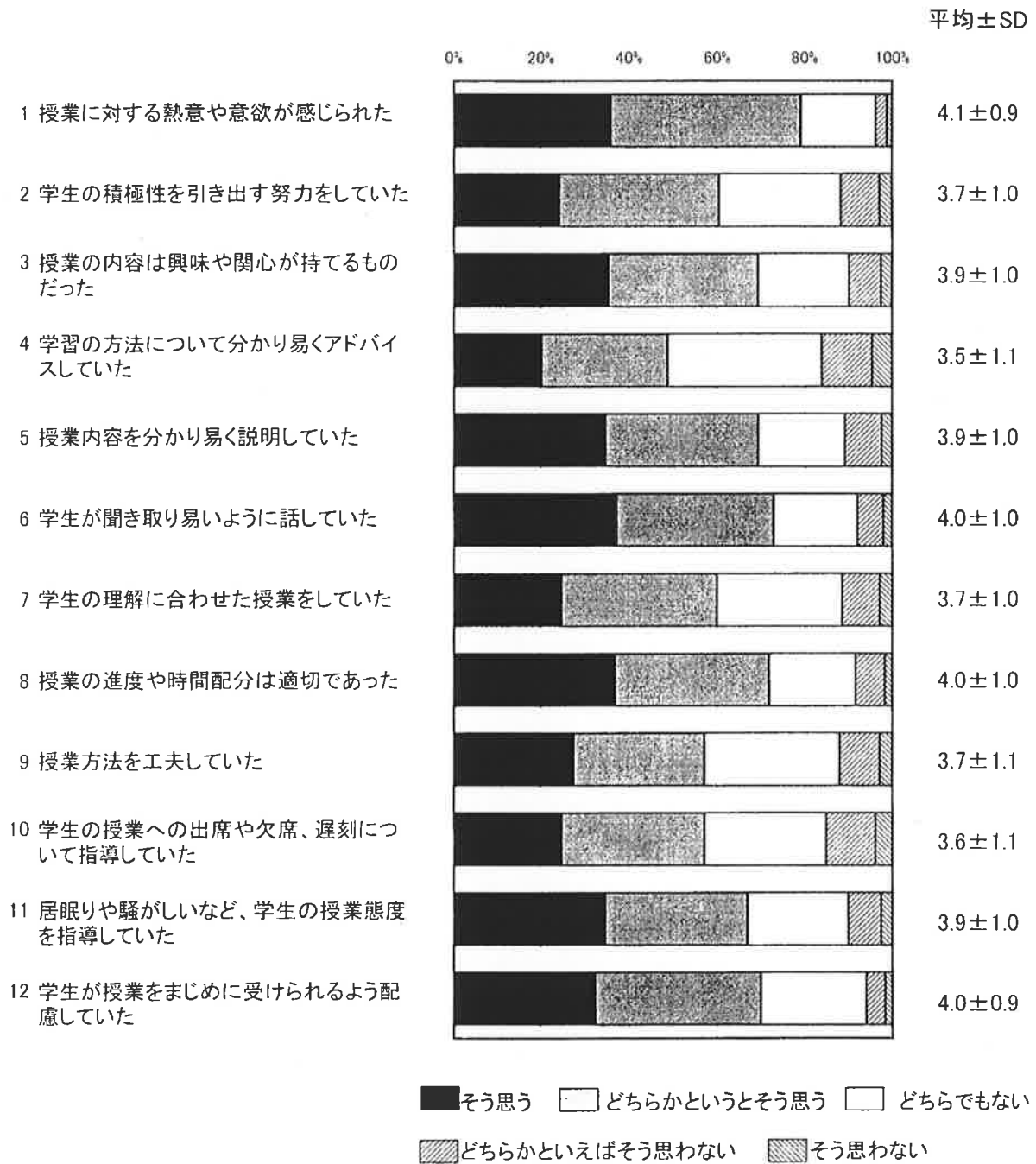


学科名：臨床心理

対象教員数： 10

対象科目数： 34

対象学生数(述べ人数)： 1221

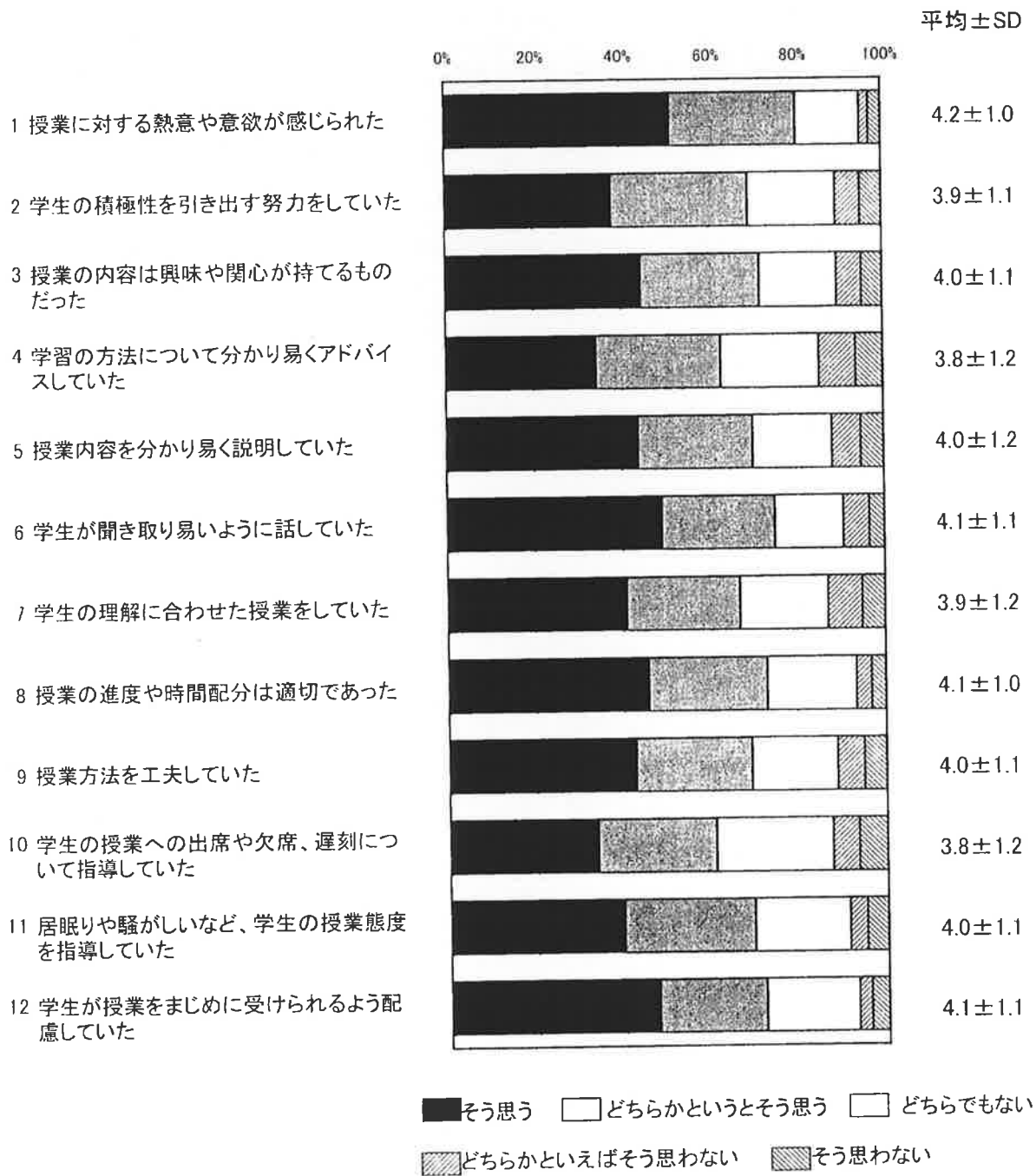


学科名： 文化財修復国際協力

対象教員数： 10

対象科目数： 37

対象学生数(述べ人数)： 855

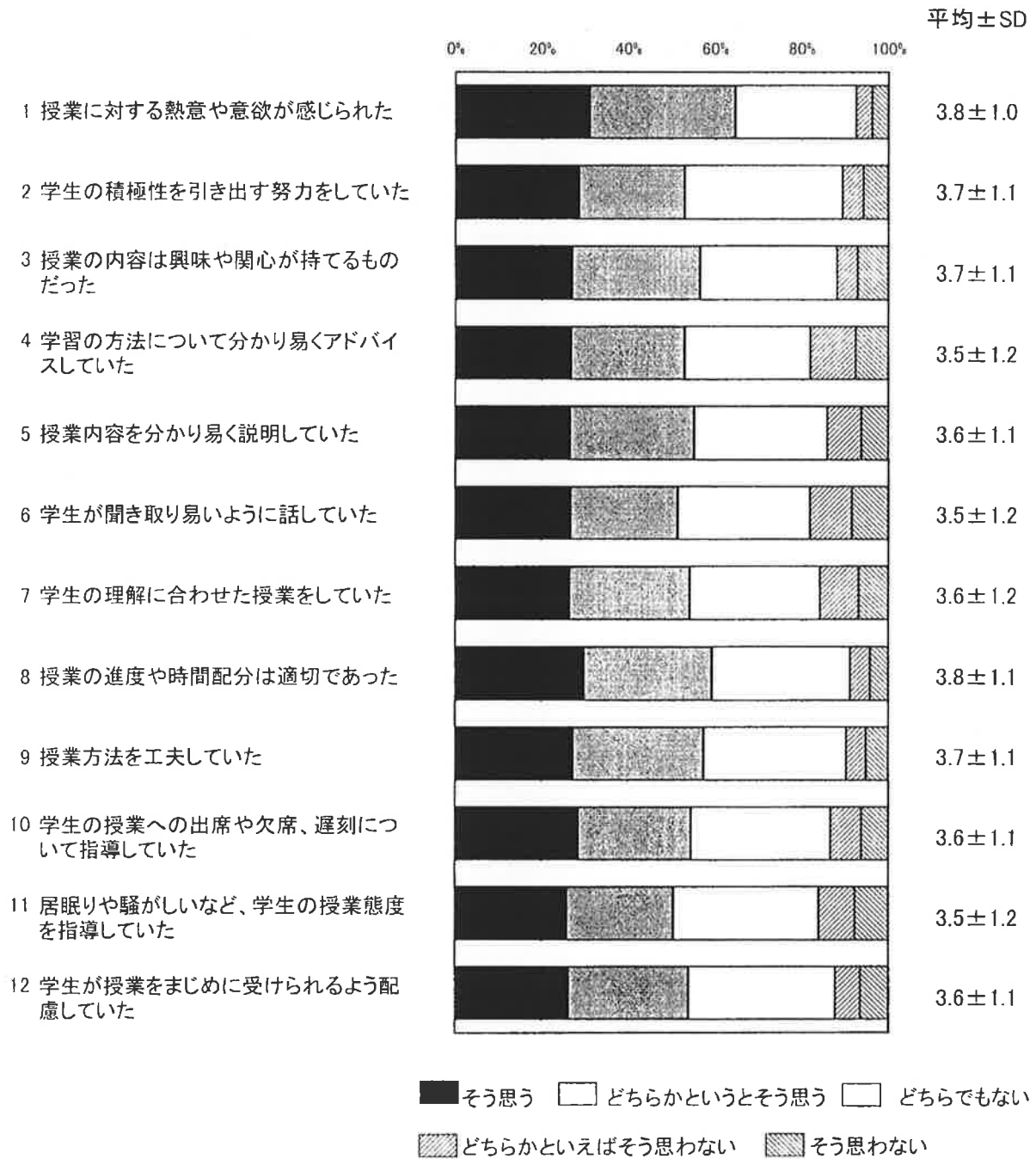


学科名： アニメーション文化

対象教員数： 5

対象科目数： 20

対象学生数(述べ人数)： 456

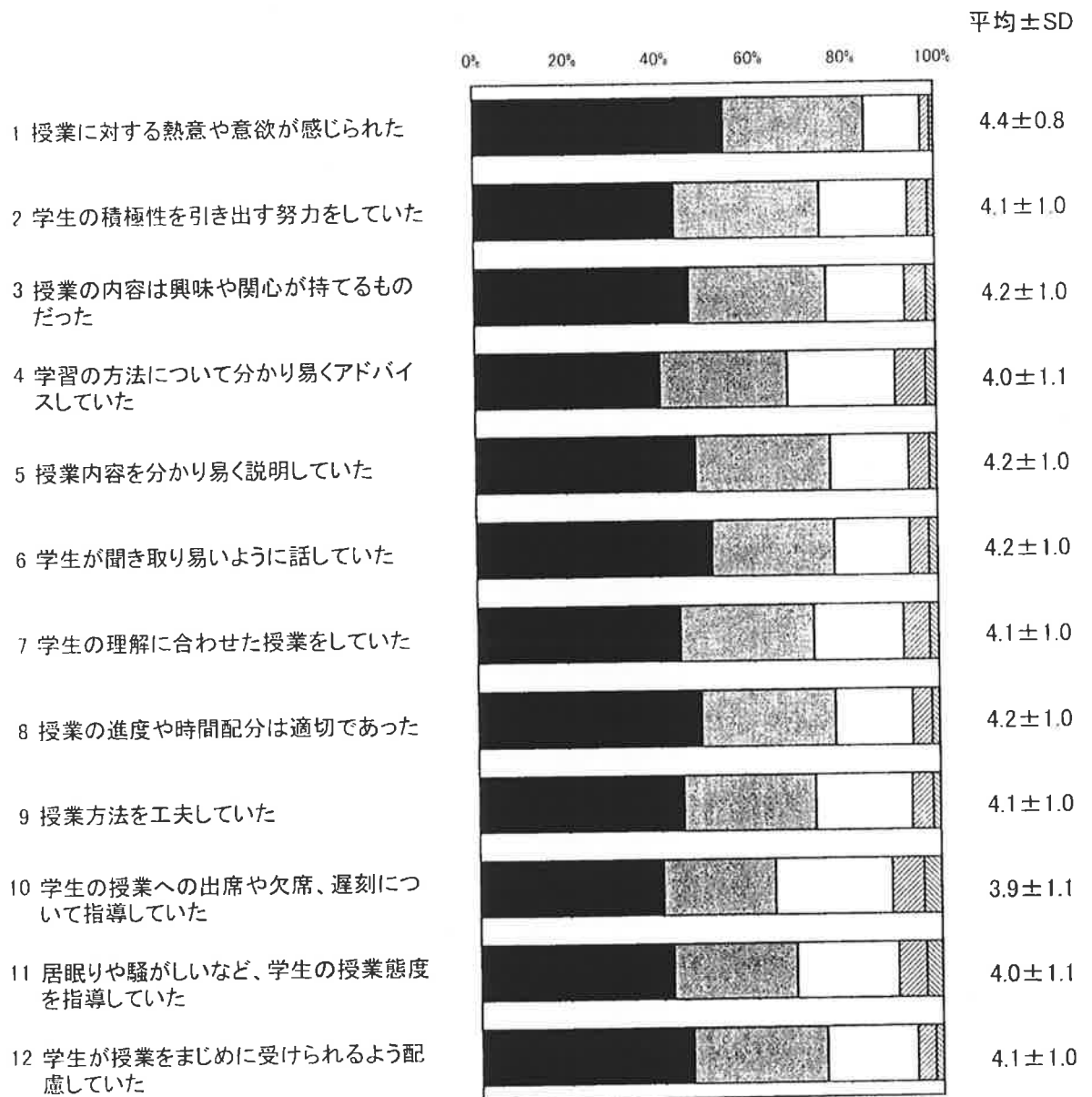


学科名：非常勤

対象教員数： 78

対象科目数： 127

対象学生数(述べ人数)： 3307



■ そう思う □ どちらかというと思う □ どちらでもない
▨ どちらかといえばそう思わない ▩ そう思わない

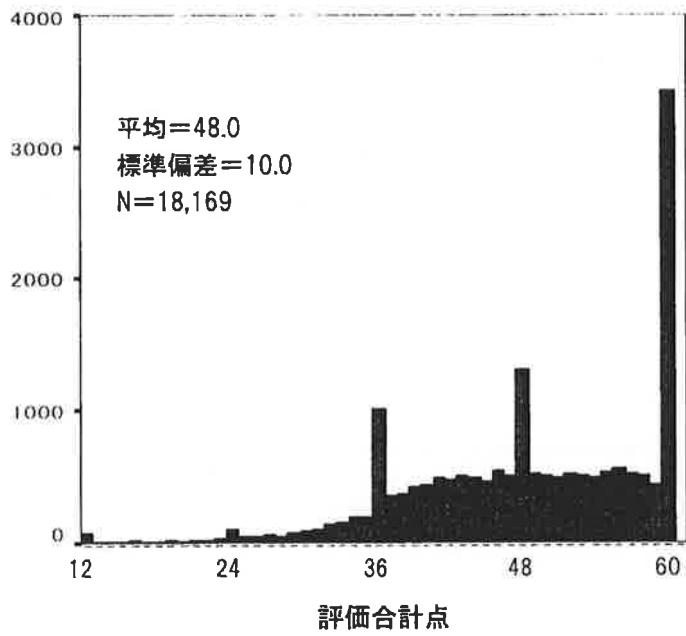
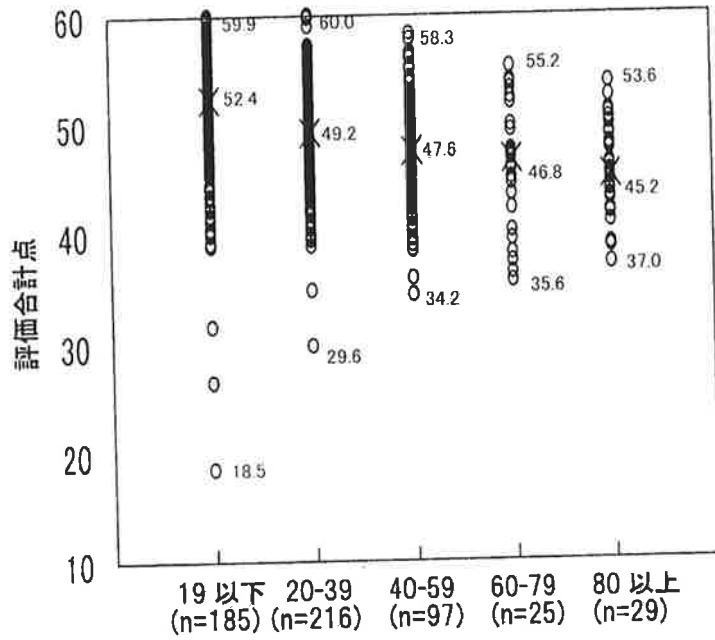


図1 評価合計点の度数分布



注：図中の数字は上から最大値、中間値、最小値を示す。

図2 回答数ごとの評価合計点の平均